

第12回本町田ひなた小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2025年10月31日（金） 9:30～11:44	
開催場所	町田第三小学校 図書室（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	多田委員、渡辺（和）委員、渡邊（康）委員、安藤委員、黒崎委員、手塚委員、野口委員、小原委員、湯目委員、本城委員、○隅田委員、大波多委員、◎清水委員、大谷委員（◎会長 ○副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、児童青少年課、企画政策課
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

1 第11回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1 説明）

2 報告事項

（1）学童保育クラブ・まちともにについて

児童青少年課 （資料2-1 説明）

（2）町田第三小学校の跡地について

企画政策課 （資料2-2 説明）

（3）学校や児童の様子について

委員

10月6日月曜日の始業式で、新たな学校づくり推進課からいただいた新校舎の完成イメージ図を体育館のスクリーンに大きく映して子どもたちに説明をした。子どもたちは、その校舎を見た瞬間にわあっと歓声を上げ、「この屋根の下が体育館だよ」、「この隣がプールだよ。屋根つきだよ」と言うと、「うわーっ」と歓声が大きくなった。その説明の際に私たち教員が気をつけたことは、「教室やオープンスペース、廊下など、なぜこのような校舎が設計できたか」というと、君たちが縦割り班活動で、6年生と1年生、5年生と3年生、4年生と2年生が学年を超えていろいろな活動をしている中で、教室だけではなく、廊下にまで出て相談をしている。それを市役所の人たちに相談したことで、廊下とは別のオープンスペースができ、オープンスペースの外に廊下ができた。これは、6年生や5年生、4年生が下の学年の面倒を見て、こういう校舎だったら使えるのに、こうだったらいいのにと意見を先生たちに伝えてくれたため。4・5・6年生の心や魂がこの設計図に生きているんだよ」と話し、4・5・6年生ががっかりしないように気を使いながら説明をした。

一番うれしかったのは、「この校舎に最高学年で入る今の3年生、君たちは、その心をちゃんと下の学年の子たちに伝えるんだよ」と言うと、早速、体育館に3年生が

残り、どういう学年にしていけるのか、これからどう過ごしていけるのか、ということを担当と一緒に心を新たにしていた。その場面を見て、私はうれしく思った。

また、10月11日に運動会を行った。小雨の中行い、天気は回復傾向という予想だったが、そうはいかず、途中で延期になり、土日と2日間連続開催となった。しかし、子どもたちは2日間連続でも元気が絶えず、ものすごく盛り上がる運動会となった。最初は白が勝っており、逆転できないかもしれないというくらい差があったが、最後に逆転し、ドーンというものすごい歓声があがり、悔し泣きをする子もいた。この全力がいいな、本当に真剣にやったからこそ悔しいし、うれしいんだよねということ話をした。

また、10月25日に道徳授業地区公開講座を行った。親子道徳デーと銘打ち、題材は異なるが、全学年「思いやり」という同じテーマで行った。講演会では、関根教育委員と、その娘さんでオリンピックである関根花観選手に来ていただき、親子対談の中で子育てについて保護者の方に説明していただいた。選手であるため、なかなか順風満帆にいかない部分を親としてどう支えたかをお話しいただき、保護者の方々はとても喜んでいて。

現在学校は、11月14日、15日の展覧会に向けて動いている。4月に開校記念式典など、特別な行事があったため、どうしてもこの時期に行事が集まってしまっているが、子どもたちにとって、全ての行事を最初の年の忘れられないものにしていきたいと思っている。子どもたちが一生懸命作品に取り組み、会場の準備もするため、すてきな展覧会になるかと思う。統合1年目ということで、全員で全部の子どもを見て、子どもたちもお互いに触れ合い、全ての行事に縦割りという言葉を買っている。どういうことかというと、よくありがちなのは学年ごとにブースを作り、そこに作品を飾る形かと思うが、今回は縦割り班ごとにブースを作り、各ブースに1年生から6年生までの作品が並び、児童鑑賞も、普通はクラスごとだが、そこをペア学年、つまり6年生と1年生、それから5年生と3年生、4年生と2年生という形で、各ブースを回りながら自分の作品を紹介したり、感想を言ってもらったりと、全ての子どもたちが自分の学年だけではなく、違う学年の作品も楽しめるようにする。教員も子どもたちを案内する中で、自分のクラスの子だけではなく、全ての学年の子を見ていくということをやっている。

ぜひ保護者の方にも、我が子の作品を見つけにくいかもしれないが、ほかの学年の作品も一緒に見るということを楽しんでいただきたい。

もちろん、いい面だけではなく、子どもであるため、トラブルがあったり、いざこざがあったりはする。しかし、私が今誇りに思っていることは、他学年のことであっても、ほかの学年の先生がそこに行って子どもの話を聞いたり、名前がぱっと出て、あの子はこういう子だよ、いい子なんだけれどもねという話が出る。それが今、本町田ひなた小の自慢だと思っている。同級生でトラブルがあったりするが、そういうところで、年下の子の面倒見のよさがかなり定着してきていると思う。これをあともう半年続けることで、本町田ひなた小の1年目を振り返って、すごく楽しかった

たな、充実していたなというふうに子ども一人一人が思える１年間になると思っている。

委員

本町田ひなた小からお話があったが、芸術の秋、行事の秋であり、町田第三小も、学芸会を２週間後に控えており、子どもたちは大変張り切っている。勉強でも張り切っているが、それ以上に、子どもたちの大好きな行事であるため、今も体育館で担任の号令に従って一生懸命表現をバージョンアップしている。ぜひ成功させたいと思っている。

直近では、６年生の連合体育大会を本町田ひなた小で行った。当日は少し肌寒だったが、平日にもかかわらず両校の多くの保護者の方にお越しいただき、温かい声援を受けながら両校の子どもたちが全力を出し合った。勝敗もあるが、それでも、子どもたちの中には確実に両校の絆をしっかりとつなげていこうという思いが随所に感じられた、とてもいい取組だった。

６年生自身は、新しい校舎に通うことはないが、もうあの子たちの中に、後輩たちへの、新たな本町田ひなた小でうまくやってくれよという気持ちが、有形無形に意識の中にあるということがとても感じられる。自分の中学校のことを心配するより、この後、うまく２校が一緒になってほしいということを、６年生は本当に一人一人言葉にしてくれるため、ありがたい先輩たちだと思っている。それくらい、やはり子どもたちにとってはなじみの深い、大好きな町田第三小である。

私たちは子どもたちに、学校がなくなるのではなく、仲間が増え、広がるのだということをまず第１に伝えている。もちろん、この地に長く根付いている町田第三小が姿を消してしまうことは子どもたちもとても気にかけているが、正直あと２年間あるため、小学生の子どもたちにとって、遠い先の話ではないかという思いがあるようだ。低学年の子どもが校長室に来た際、歴代の校長の写真が並んでいるのを見て、こんなにたくさんの校長先生が町田第三小にはいらっしゃったんだということをしみじみ語っていた。いろんな不安、心配もある中で、子どもたちにとっていろんな意味で学びになっていると思う。寂しい思いがありつつも、子どもたちの心の中にしっかりとよい思い出として刻ませていき、それを来年、再来年も気をつけて取り組んでいきたいと思っている。

もちろん、私たちがそう思うだけではなく、後で話題になるかと思うが、つい最近、市のほうから通知があった子ども向けのご意見フォームなどを通して子どもたちの色々な声や気持ちをしっかり受け止め、これからの私たちの取組にも生かしていければと思っている。

また、先ほどの連合体育大会もだが、本町田ひなた小からも、今後、同じ学校の児童になるということを踏まえ、いろいろと町田第三小にも呼びかけをしてくださり、気配り、ご配慮をいただいている。それを踏まえ、次年度以降、より一層子どもたち同士の交流の取組も増やしていけたらと思うとともに、徐々に教職員間の連携も深めていく段階に入っていくかと思う。

また、学校間だけではなく、地域の取組として、ひなた村を使ったミニ運動会や、

来月末には地域の方の子どもまつりがある。そういったところでも両校の子どもたちが一緒になって遊ぶ機会を多く設けていただいているということは、この時期、本当にありがたいことだと思っている。触れ合うにつれ、子どもたちの心配が期待に変わっていき、それを地域の皆さんもバックアップしていただいていることを大変心強く思っている。どうぞ今後とも、よろしくお願いしたい。

一方で、保護者の皆さんのお声の中には、やはり学区域が広がるということで通学路についてのご心配の声が聞こえている。実際にはどれくらい時間がかかるのか、重い荷物を背負って子どもたちは大丈夫だろうかなど、具体的なご心配のお声をいただいている。それについては町田市の施策も含め、荷物を軽くする取組や、通学路については様々なご支援をいただけるであろうと思っている。つい先月、安全委員会というものを独自に町田第三小の中に立ち上げた。普段から朝、夕と子どもたちの見守りに携わってくださっている皆さんにお声かけをし、実際の今の子どもたちの通学の状況をより一層安全にすることに加え、新しい通学路をどこにどのように定めることが一番妥当なのかということ、地図の上で示すだけではなく、実際に子どもたちの様子を見ていただいている皆さんのお声をいただきながら本当に安全な通学路を決めていく、その一里塚にしていきたいと思っている。そういった今後に向けた取組を始めたばかりだが、より裾野を広げ、皆さんのご指示もいただきながら、子どもたちの安全と安心と期待をつないでいけたらと思っている。

(4) 新校舎整備の進捗について

新たな学校推進課 (資料2-3 説明)

委員 資料にある二次元コードからスマホで工事の進捗を見ることができるのか。

新たな学校推進課 ご覧いただける。

委員 今現在どうなっているかも分かるのか。

新たな学校推進課 今は解体工事が進んでいるため、その進捗ということで航空写真を1か月ごとに更新しているが、ホームページには少し遅れて掲載しているため、現在、現地に行って見てもらうものとは少し状況が異なる。

委員 本町田ひなた小の子ども旧本町田東小の校舎を少し気にしているところがある。

委員 町田で最初にオープンスペースをつくった学校は、小山小か。

委員 小山ヶ丘小である。

委員 見学に行った際に気になったことだが、隣の教室がすぐ見えるような状態であり、廊下を通る人も全部見えるため、子どもたちの集中はどうか、気が散ったりしないのか。オープンスペースを作ってから、フリースペースになってすごくよかった、やはり少し問題があった、というような声は何かあるのか。

新たな学校推進課 小山ヶ丘小は教室側の仕切りがないタイプのオープンスペースがある学校。その後、図師小など、少し形を変えながらオープンスペースがある学校をつくった。確かに、音が入ってきて集中できないといった声や、テストの時間など、色々なお声があったため、年代によっていろいろと試しながらつくっている。

今回の新校舎については、教室に間仕切りがあり、ドアのように閉めることも、片側に寄せて広く開けることもできる。これまでの経験を生かして、どちらにも対応できるようつくりをしていきたいと考えている。

委員

来年度、オープンスペースの活用法について、専門に研究なさっている大学教授、山口教授に本町田ひなた小に来ていただき、職員を対象に、このような授業のときにこのように使うともっと有効ですよ、という研修を行う予定。教員も新たな校舎を有効に使えるような研修を行い、新校舎に備えたいと思っている。

委員

私の孫は小山ヶ丘小ができた際に入学した。その際に学校を見学させていただいたが、廊下が全部一方通行になっており、色分けされていて、同じような形でぐるぐる回るようにできていた。

(5) 子どもたちと進める新たな学校づくりの取組について

新たな学校推進課 （資料2-4 説明）

(6) 中学校の新たな学校づくりの進捗について

新たな学校推進課 （資料2-5 説明）

(7) 「(仮称) 学校統合に伴う通学等に関する基本方針」の検討について

新たな学校推進課 （資料2-6 説明）

委員

個人的な考えと、4人子育てをしている反省点としてだが、子どもが4人いると、車移動ばかりしていた。中1の息子が、夏に遠征で色々な中学校の体育館を借りて部活動をしていたが、町田に住んでいるのに町田をあまり知らない、道が分からないということが今になって分かり、歩かせなかったことの後悔がある。学童もたくさん利用させていただいたが、学童と家の往復も車でしていることが多かったため、もっと冒険させておけばよかったというのが私の後悔としてある。

そのため、不審者など、色々と歩くことに対する心配はあるが、隅田校長先生も安全委員会を立ち上げてくださり、地域の方と連携を取ってくださっているため、統合に向けては地域の方とつながり、少し心にゆとりを持てるような方向で、交通手段を使うのではなく、みんな遠くても体力をつけるために歩こう、という方向に持っていけたらいいと思う。

先日、家の前で小学校1年生の女の子に、「すみません、待ち合わせをしているのに友達が来ないんです」といきなり話しかけられた。なぜ私に声をかけたかという、と、旗振りをしている人だったから。それが私はすごくうれしかった。「もうちょっと待ってみようか。公園でもうちょっと待ってみて」と言ってさよならしたが、知らない子ともつながれたことがすごくうれしかったため、そういう方向でいけたらいいと思う。

新たな学校推進課 通学については、色々な手段があるということも大事かと思っている。この後、皆さんにもご検討いただくが、歩いて行く子が必ずいるため、どう安全に歩いて行く

か、皆さんの目があるかなど、並行して検討していくことは当然必要なことだと思っている。そこは両面合わせていきながら、2028年度に向けて皆さんと考えていきたいらいいと思っている。

委員

先日、町田地区の地区委員会の会長が集まった際、ほかの地区の会長から、旗振りをやってくれる人がなかなかいないという話があった。地域の人たちが安全を守らなければいけないということで、地区委員会が動かなければいけないと考えている。

しかし、報酬は出ないのか、その報酬は地区委員会の補助金から出していいのか、地区協議会がお金をたくさんもらっているため、そこから少し回してもらえないのか、という話が出た。

また、旧本町田東小がなくなったため、その付近で旗振りをしていた人たちが前ほどの熱量がないという話が薬師の会長からあった。ちょうど町田第三小で安全委員会が立ち上がり、旗振りの人に、何かのイベントがあったときに声をかけるなど、気にかけてくださっている。そうすると、私たちのやっていることが認められているという気持ちや、ずっと続けていると子どもたちのことも気になり、自分が出ないときに何かあったら嫌だからやはり出ようというような意識が芽生える。今後、旧本町田東小のほうに子どもたちが戻るため、旧本町田東小の付近の人たちの見守りも大事になってくる。新しいところに移る前に、旗振りなどで地域や保護者が危ないところを見守ろうという意識を盛り上げていただけるようなことを、この2年間でやっていただき、実際に移ったときに色々な目があるような環境をつくることをしていただけたらと思う。

委員

荷物が重いということに関して、クロームブックを宿題で毎日持って帰っているが、宿題をやって、次の日、学校で使わない日もある。そうすると、使わないでまた持って帰ってきて、宿題だけやって、また持って行くのは、何か意味があるのか。また、教科書を学校に置いておくと、親として何をやっているのか分からない。一緒に教科書を読みたい気持ちもある。「ちいちゃんのかげおくり」をやっているようで、「お母さんもやっていたよ」と言ったが、私は少し忘れており、教科書があったら一緒に読めるのになと思った。子どもがやっていることが見えにくいということが、少し寂しい気持ちがある。

クロームブックは重い。もっと薄いものにするという話が前にあったかと思うが、それはどうなっているのか。また、置いてくるものと持ってくるものについて、まだ悩まれているところだと思うが、何かうまくできるようにならないか。

新たな学校推進課 クロームブックについては、2026年4月から切り替える予定である。

置き勉については、昨年、一昨年、荷物らくらく登校ということで本町田の各学校で試行させていただいた。その中でいただいたご意見や結果を踏まえ、方針を立て、重さの目安をつくり、その中で学校の判断で持っていくもの、持って帰らないものを決めるなど、教育委員会としても1つの方針を立てる方向で検討している。

委員

実験校として、本町田ひなた小は現在、荷物らくらく登校に取り組んでいる。1年生は原則クロームブックを持ち帰らない。ほかの学年は週に1回、週末に持って帰

っている。

また、これはほかの学校でもやっていると思うが、アサガオなど、鉢を持ち帰る際はなるべく保護者の方々に協力していただいている。

宿題については、もちろん週1回が週2回になる場合もあるが、基本的に使わないものは持って帰らないようにしている。しかし、現校舎は昔ながらの設計になっているため、置き勉強をするにも、置くスペースを探さなければならない。また、放課後、子どもたちのものを安心安全に置いておけるかという問題もあり、各学校によって事情は違うかと思っている。

新しいクロームブックは打つところと画面を外してタブレットのように画面だけで使えるようになり、今までより軽くなる。

教育委員会と手を取り合い、連携して色々やっている。そのため、町田第三小と合流する際にはもう少し形になっているかと思う。

委員

負担軽減策の中で2キロの通学の範囲があると思うが、我が家が学区の境のエリアにある。2キロに入らないかもしれないが、やはり天候が悪いときや、夏の暑い日にひなたをずっと歩き続けている我が子の姿を見て、どうにかならないのかと心配になることがある。今も20分、暑い中を歩いて、汗びしょりだが、まだ1年生なので大きい水筒を持って行くのは大変。そのため、できる限り徒歩で行くつもりではいるが、天候によって公共交通機関を使うなど、自由に通学路を検討する必要もあると思う。

また、学校で水を入れる際に水道をうまく使えたらというのもあるが、2キロの軽減策の範囲に入りそうで入らないエリアの子たちにも少し何かあればと思う。

新たな学校推進課 この方針の中では、基本的な考え方や大きな方針を示しており、それに基づいてどう運用するかは、今後協議会等で考えていく。

どこで線を引いて区切るかというのは難しい部分だと思っているため、色々なご意見を伺いながら、最終的に決めていくことになるかと思う。

3 検討事項

(1) 通学路の安全対策について

学務課 (資料3-1 説明)

新たな学校推進課 (資料3-1 説明)

[ワークショップ]

新たな学校推進課 Aの地図について、やはり団地の外周路を使いたいが、途中で歩道が切れてしまっており、横断歩道の場所も限られているため、学校に近いところに、横断歩道の設置など何か対策ができないかというご意見があった。

また、団地の中を突っ切って行く子どもが現実にはいるのではないかとということで、団地の中も通学路に指定できないのかというご意見もあった。一方で、最近団地

が寂しくなっているということもあり、防犯的にどうなのかという懸念もあった。

Bと関連するが、やはり弥生ヶ丘の子が遺跡公園から団地の外周路に出ていくというのが一番近くていいが、歩道がない側に下りることになり、横断歩道までも少し距離があるため、そこは何か対策ができないかというご意見があった。それが難しいのであれば、別の経路として、遺跡公園を越えた先から急坂を下がっていくところ、藤の台球場の脇に出る急坂を下るほうの道を行くとなると、車の抜け道になっていたりもするため、スクールゾーンの指定のような、子どもたちだけが通れるような対策ができないかというご意見があった。

Bの地図について、本町田住宅周辺は、最近宅地の開発があり、状況が変わっている。車の量も以前に比べて増えており、交差点など、注意が必要な箇所があるというご意見があった。

また、町田高校の裏に近いほうは傾斜になっており、高い側の子は鎌倉街道に出るのがいいのではないかとご意見があった。一方で、下側に近い子は、団地の子と同じで本町田住宅のほうに出て町田第三小のほうに行くのがいいのではないかとご意見があった。

Cの地図について、本町田ひなた小の現校舎の前のバス通りと、図中でいう真ん中を横に長く走っている道、その2つは歩道があるため、とにかくそこに出ていくのがいいのではないかとご意見があった。しかし、交差点での車の出入りに注意が必要であり、鎌倉街道に出てからどこで渡るかという部分は考えなければいけないというご意見があった。

新たな学校推進課 Aの地図について、図中の①の道が、歩道がない、もしくはあっても狭いため、団地の中の道を通るほうがいいというご意見があった。今後、団地の管理事業者との調整もあると思うが、道も平坦であるため、そこを通るほうがいいのではというご意見があった。

Bの地図の②と③の道のどちらを通るかについて、やはり③の道が、横断歩道がないということもあるため、②を通す前提で検討した。そこをスクールゾーンにするのはハードルが高いとのことだが、舗装の色を変えたり、看板を立てたり、何らかの形で子どもがここを通るということを周知できれば、②の道を通したほうが距離も短くていいのではないかとご意見があった。回り道をするとも考えたが、相当の回り道になるため、②か③は通らざるを得ないだろうという結論になった。

本町田住宅の辺りについては、基本的には既存の通学路があるため、そこを通るが、最後、本町田ひなた小に向かっていく部分で、④の道は歩道がなく、車の抜け道となっているため、この道はなるべく通したくないというご意見があった。そのため、少し遠回りにはなるが、一度鎌倉街道に出て、コーヒー店の前、歩道のあるところを通して本町田ひなた小に向かうのが安全なのではないかとご意見があった。④の道は、町田第三小が校外学習で歩く際に一番気を使うところであるため、できればここは通さないほうがいいのではないかとご意見があった。

町田高校の裏については、既存の通学路を通しつつ、⑤も当然使うが、どこを渡る

か、信号待ちのスペースがあるか、自転車がどれぐらい通るか、旗振りの方がどれぐらい立てるのか、そういった条件を加味しながら引き続き検討していく必要があるのではないかとのご意見があった。

Cの地図について、町田3・3・36号線ができて少し交通量が増えている。特に町田第三中のそばの三差路については見通しも悪く、お近くにお住まいの方も不安を感じており、今は自前のカーブミラーが設置されているが、公式な形でカーブミラーを設置することが理想的だというご意見があった。

いずれにせよ、先ほどのグループと同じで、町田3・3・36号線か、もしくは消防署の前の道、広い歩道のある道に少しでも早く出すことが優先というご意見があった。

また、スーパーがその通り沿いにできるという話があり、それができると特に帰りの時間帯の交通事情が変わってくるため、そこは引き続き状況を注視しながら考えていく必要があるのではないかとのご意見があった。

新たな学校推進課 Aの地図について、藤の台団地の中を校外学習等で子どもたちが実際に通っている現状を考えると、そこを通学路に指定してもいいのではないかとこの反面、団地に住んでいる子どもの数が少ないため、あえて指定する必要があるのかどうか、というご意見があった。団地の中も抜け道として交通量がある現状を考えると、全ての道を指定していくのは難しいかと思う。

①の道は、歩道はあるが、鎌倉街道の抜け道になっているために交通量が多く心配であるため、この道に車が入ってくることにする規制を可能であればしてほしいというご意見があった。

Bの地図について、②の部分が特に狭くなっているため、ここを拡張できないか、できれば子どもたちを歩かせるのは心配であるというご意見があった。③については、出たところに信号がないため、渡ることができないのが難しい。いずれにせよ、①に出てくる部分が難しいため、2つのグループから出たような対策が取れないと心配であるというご意見があった。

④の道はとても狭く、抜け道として使われているために交通量が多く、自転車も多いため、心配であるというご意見があった。しかし、子どもにとっては、コーヒー店の側の鎌倉街道のほうまで出て行くのは遠回りになってしまうため、何も規制しなければ④のほうへ通すのがいいのではないかとのご意見があった。⑤は、今はつながっていないが、新校舎に通うことになれば信号もしっかりついているため、心配ないだろうというご意見があった。

本町田住宅については、バスに乗るのであれば菅原神社へ出るという手もあるが、実際には歩くしかないのではないかとのご意見があった。

町田高校付近については、鎌倉街道へ出てバスで通うのがベストなのではないかというご意見があった。

Cの地図について、現在の本町田ひなた小から木曽団東交差点へ出て、新しい本町田ひなた小へ向かうのがベストではないかというご意見があった。団地の中を抜

けていく道もあるが、ここを通るかどうかの判断は、各ご家庭に任せるしかないというご意見があった。

また、今通学路の線が引かれていない道路として、消防署前のドラッグストア付近へ出てくる道に2本ほど、狭い道ではあるが、通学路に指定して何とか規制をかけたほうがいいのかというご意見があった。

新たな学校推進課 今日のワークショップを踏まえて、ご意見をいただいた注意箇所や気になる箇所を朝の通学時間帯に委員の皆さんで実際に歩く機会を持ちたいと思っている。

日程調整にご協力をいただいた結果、藤の台の地域に関しては11月17日月曜日、本町田住宅の地域に関しては11月6日木曜日、滝の沢の地域に関しては11月21日金曜日とする。いずれも朝の7時半頃から1時間程度を予定している。詳細な集合時間、場所については改めてメールや電話でご連絡をさせていただきたく。

4 次回開催予定

新たな学校推進課 第13回推進協議会

2026年1月30日（月曜日） 9時30分 本町田ひなた小学校